

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	杏林大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	キョウリンダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップ I・II
	学部・研究科等名	総合政策学部
	担当教職員名・役職	田中 信弘・教授
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	49
	受入企業等数	46
	受入企業等名	三鷹市、八王子市、羽村市、株式会社エービーシー商会、ネットヨタ多摩株式会社、三機工業株式会社、株式会社サイサン 他 計41社
	インターンシップの分類	5.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ,6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ,7.中小企業でのインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事,2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外で実施している就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	配属に合わせ、就業体験や企業の課題解決のワークショップを体験する。また、企業によっては会議に参加し議事録の作成など具体的な業務を学ぶとともに成果を発表し評価を受ける。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している,6.当該インターンシップは、選択科目として実施している,7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している,8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次・3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	4単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	2、3年生の学生を対象に夏季休暇中のインターンシップ派遣を組み合わせた通年授業として実施している。キャリア教育科目の「インターンシップ I・II」として実施し、総合政策学部が学位授与の方針において定めている卒業時点までに獲得すべき能力のうち、幅広い教養、ビジネス・ベーシック・スキル、ライフデザインスキルを養うことを目的としている。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用手法等を身に付ける授業等を行っている,2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている,3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている,3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ I の講義においてインターンシップの趣旨や目的の理解(1回)、ビジネスマナーの講義(6回)、グループワークを通じた業界研究と発表(4回)、派遣先の企業研究と発表(3回)、リスクマネジメントを含めた派遣上の諸注意(1回)を実施している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ II の講義においてオリエンテーション(1回)、企業担当者を招聘する成果発表(8回)を実施している。そのほかに企業評価のフィードバック(2回)、派遣で得た経験についてのディスカッション(3回)、アセスメントテストの実施(1回)、テスト結果のフィードバック(1回)を実施している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ期間中に教員又はキャリアサポートセンター職員が派遣企業へ訪問し、企業担当者と学生にヒヤリングを行っている。企業担当者から実習の様子を聞き、学生に目標達成に向けたアドバイスをを行うとともに問題が発生した場合は対応できる体制を取っている。
4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい	

要素④	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている。2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	4月、9月、12月に行動と意識の変容を測定できるテストを実施し教育効果を測定するとともに研修レポートの作成により自身の内省を促している。またアセスメントテストである「PROG」を実施し、自己理解を深めることにより今後の学修の動機づけに資するような指導を行っている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日間～20日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	各受け入れ先において5日～20日の期間でインターンシップを実施している。派遣前に学生と企業が日程や期間の調整を行い十分な研修を受けられるようにしている。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	依頼時にインターンシップの趣旨、目的、依頼内容等を説明する文書を送付し企業に受け入れの検討をいただいている。新規に検討いただく施設にはキャリアサポートセンターの職員が訪問し、派遣期間中のプログラムについての依頼や具体案を企業と共に検討している。また、インターンシップ担当者をキャリアサポートセンターに置き、企業からの問い合わせに対応することで負担軽減を図る体制を取っている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/center/career/graduate/
問い合わせ先	大学等名	杏林大学
	担当部署名	キャリアサポートセンター
	担当者役職名	課長
	担当者氏名	
	電話番号	0422-47-8010
	メールアドレス	recruit@ks.kyorin-u.ac.jp